

南風原

公用車にバイオ燃料

廃油回収し精製・利用

【南風原】家庭から出る廃食用油を回収、リサイクルして製造した「バイオディーゼル燃料(BDF)」を公用車に利用する取り組みが町で始まった。回収から精製、利用と一連の取り組みを自治体が独自で行うのは県内初。22日、町学校給食共同調理場で給食配送車、清掃車の計7台に燃料が入られ、出発式が行われた。

自治体では県内初

町が2007年に策定した第4次総合計画で目標に掲げた循環型社会を目指す取り組みの一環で、県雇用再生特別



配膳(はいぜん)回収に向かうバイオディーゼルを利用した給食配送車＝南風原町・学校給食共同調理場

事業を活用。城間俊安町長は「資源の再利用は環境に優しい。循環型社会へ向けて画期的な出発の日だ」とあいさつした。

各家庭からの収集は町内の授産施設「南風学園」、精製は特定非営利活動法人(NPO法人)のぞみの里にそれぞれ委託。のぞみの里では町がヘルスクリーン(那覇市)からリースで購入した専用装置で1日100リットルを製造しており、公用車7台に必要な燃料が年間を通し賄えるという。同燃料は既存のディーゼル車に使用できる。同事業により、のぞみの里

では8人の職員、パートを新採用。今後、収集・精製量を増やし、3年後にはNPO単独で事業展開を目指している。